

長崎北病院 伝言板 10月号

令和5年10月1日発行

10月。神無月。全国の神様が出雲へ会議に出かけるので神様不在で「神無月」だそう。猛暑、酷暑の今年。まだ日中は30度越え。しかし田んぼの畦道には彼岸花。「曼珠沙華一むら燃えて秋陽つよし」。良くみると桜葉も黄色く色付き、一葉一葉散っています。ちゃんと秋は来てますよと自己主張。気持ちの良い季節、外に出る季節。でもコロナはいます。気をつけて外へ。体を動かしましょう。



“ネコちゃん落下25m走”

勉学の秋、スポーツの秋、読書の秋とも言います。何かしなくてはと言いつつテレビ鑑賞(^▽^)

NHKをつけたら「魔改造の夜」という番組があった。 “子供のおもちゃ” や “日常使用の家電” をエンジニアたちがモンスターマシンへ大改造して戦う。アイデアとテクニックを振り絞る。「大人のロボコン」。先日の放送は「ネコちゃん落下25m走」。 ゆっくりと歩くだけの小さな猫のおもちゃを改造して25m走らせタイムを競う。簡単そうであるが途中に6mの垂直の段差がある。6mといえば歩道橋の高さ。そこから落下して、さらにゴールを目指す。落下の衝撃でマシンはバラバラになる。参加したチームは苦闘する。パラシュート、傘の応用、足の強化。うまくいかない。壊れる、ひっくり返るなど散々。やりたいと手を挙げた若手、中堅メンバーが挑む。効率を求める、熱くならないといわれる若手が頑張る。夜も泊まりこんで打ち込む。しかし、失敗が続く。タイムリミットが迫る。何か方法はないか。助けを求める。人が寄ってくる。



大先輩にも尋ねる。肩書きも所属も関係ない。「こうしたらどう?」。若い発想に長年の経験、熟練の技が加わる。一つ一つ壁を越える。そこには「仕事よりずっときつかったです」と言いつつ「良い顔」をした大人達がいる。完成、そして本番。脚が壊れる、ぐるぐる回る、反対向きに走る、ひっくり返る。トラブル続出。結局、強化した足で着地した猫と絡み付いたパラシュートを引きずって走った猫がなんとかゴール。思い通りにはいかなかった。でも表情は、悔しさよりも感動。涙しながらも晴れやか。おもちゃの猫を走らせる。こんな馬鹿馬鹿しいことに大の大人が本気で挑む。航空機産業、自動車、精密機械などのエンジニア集団が寝ずに絞り出す。仕事ではないが仕事より熱い。普段は交流がない部門や世代が粹や損得を超えて集まる。負けたチームはリベンジを誓うが、完走したチームと一緒に祝福していた。勝ち負けではない。何かに「熱くなれるか」。共通の目的を目指せるか。参加できるか。無駄になるかもしれない、効率の悪いことにチャレンジできるか。99%失敗でも1%でもうまくいく瞬間があると嬉しい。うまくいくとわかっていたら面白くない。小さな達成感や成功体験が次へ進む原動力。結果はどうであれ、奮闘したチームや企業は大きな財産を得る。技術の番組のように見えるが「人間ドラマ」。何かを成し遂げたい、やってみたい、加わりたい。人間の証明、本質。だから「トラちゃんウサちゃん50mリレー」「トースター高跳び」「電気ケトル綱引き」などという馬鹿馬鹿しいテーマに、Sony、トヨタ、ホンダ、日産、IHI、東大など名だたるチームが参戦してくる。どの世界でも、どの年代でも何かに挑むチャンスはくる。自発的でもイヤイヤでも。手を挙げる、参加する、集まる、知恵を出す、熱中する、悔し涙。うまくいくこともある、挫折、失敗もある。でも本人も、チームも周りも強くなっている、一段階段を登っている。無駄かどうかは自分が決める。(それにしても面白そうでした)(A.S.)

